

旭市民の皆様へ

有田恵子

旭市長選落選後のご報告

旭市長戦では多大のご声援を頂き感謝しております。遅ればせながらネット上でご挨拶申し上げます。私は、2対1での大差での負けはどうしても納得できません。そこで、旭市選管に対し「異議申出」と市役所総務課に対する「投票用紙の開示」を要求しておりましたが、8月14日どちらも却下されました。私の要求した投票用紙の開示請求は、投票用紙を1枚1枚見せてくれと言っているのではありません。100枚束になっている投票用紙の束数を確認したいだけの要求であり、個人情報には全く抵触しない開示請求です。断る理由はないのです。それなのにこれを断るといふことは何らかの不正が行われた証拠と思われる。

一番疑わしいのは、パソコンの設定による不正です。投票用紙の100枚の束上に付表(立候補者の氏名とバーコードを打ち込んだもの)を載せて輪ゴムで束にされております。このバーコードを読み込んでパソコン内で集計される仕組みになっております。この付表は旭市役所内部で自前で設定・登録されますのでどのような設定・登録でも可能となります。不正設定が十分疑われます。

私は、この付表の氏名とバーコードを入れ替えたのではないかと疑っております。具体的に言えば有田の付表に明智氏のバーコード打ち込み、明智氏の付表に有田のバーコードをうち込むのです。そうすれば誰にも知られず有田の得票と明智氏の得票をすり替えることが出来るのです。

疑った理由は、付表の使用されなかった残部を投票日の翌日、7月24日に見本も残さず全て破棄していることです。投票日7月23日に作成した付表を翌日あわてて破棄する必要はありません。不正の証拠を1日でも早く処分したかったのではないのでしょうか。付表は、有田、明智氏分どちらも300枚作成されました。有田の得票は7667票でした。これが正しければ付表は224枚残っていません。また、明智氏の得票は14502票でした。これが正しければ付表は155枚残っていません。もし、付表の残がこの数字と異なっていれば不正を行った証拠となります。1枚も残さず破棄したということは、残数を確認できないようにするためだったのでしょうか。旭市選管はこれを恐れたのではないのでしょうか。